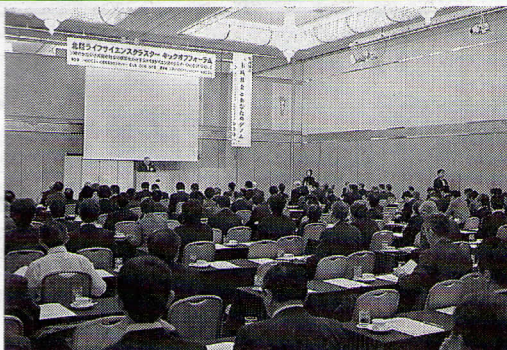


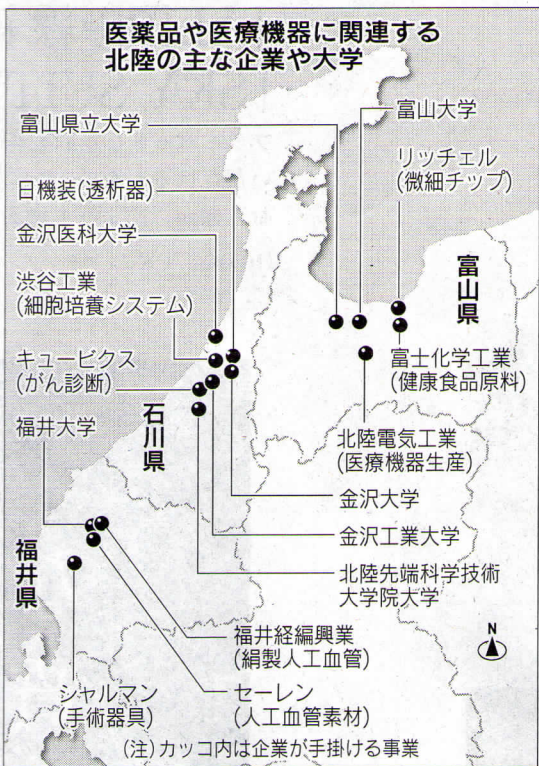
医療・医薬 1兆円産業へ

医薬品や医療機器の開発を狙って、北陸3県や大学・関連企業が中心となった連携事業が本格化する。北陸の強みを生かした事業化を狙う「北陸ライフサイエンスクラスター」で、有望な10の研究を支援するほか、新たな産学連携を狙ったデータベースづくりにも着手した。2020年の関連産業の生産額を現在より3割増の1兆円を目指す。



クラスター事業のキックオフ会には約180人の関係者が参加した(昨年12月、金沢市)

県またぎ産学連携強化



特許や技術データ共有

昨年夏、文部科学省が下部組織、北陸産業活性化センター(金沢市)を決めたのを受け、3県内に設けた。などはクラスター事業の推進室を北陸経済連合会 究は3県にある大学や企業を手掛ける富士化学工業

業の研究実績を踏まえて選んだ。富山では病気の予防、石川は診断、福井は治療がそれぞれ重点的な分野となった。

例えば、富山県内では甲殻類に含まれる抗酸化物質のアスタキサンチンを活用した健康食品の開発を目指す。医療品原料

（上市町）と富山大学が連携する。石川県内では生活習慣病の検査が簡単にできる金沢大学の技術を応用し、チップ型計測システムの完成を目指す。福井県内では福井大学が外科用インプラントに着目し、眼鏡フレーム製造のシャルマン(鯖江市)が発掘を狙う。

持つ金属加工技術など工技術などを応用する。考えた。クラスターとは、ブドウの房のように大学や企業などが研究を通じて連携し、地域活性化を目指すもので、国も資金支援に力を入れている。

の柱が県境を越えた連携の土台づくりだ。推進室は医療分野の研究成果や特許、企業や大学の技術についてデータベース化を進める。創薬や健康食品、医療機器など幅広い分野で関係者が情報を共有し、研究者と企業を橋渡す。

三菱電機OBで司令塔の役割を担う推進室の福井幸博プロジェクトディレクターは「研究成果を「あるものを育てるのでなく、必要なものを育てる」と説明する。国内外の医療産業動向の調査も進めることで、事業化に期待できる開発テーマの創出を目指す。

文科省科学技術・学術政策局の担当次長は「健康や少子高齢化をテーマとするクラスターは全国にたくさんある」と指摘する。関西の自治体や経済団体が中心となって政府の国家戦略特区を活用し、医療・医薬・バイオ関連の産学連携を加速させている。



01つが立ち上がったが、成果となる商品化・事業化件数は20件と、目標の半分にとどまった。今回のクラスターは福井県の大学や企業などが